

お米ができるまで

種^{たね}もみ

お米^{こめ}の種^{たね}のことを種^{たね}もみとといいます。

もみはいつも食^たべているお米^{こめ}とはちがい、
白^{しろ}くありません。

これから芽^めが出て、苗^{なえ}になります。



なえ
苗づくり

こめ
お米をつくるときは、たね
種もみを た
田んぼにまかず、
め
芽が 出で 大きくなるまで いく びょう ばこ
育苗箱で 育てます。 そだ



いく びょう ばこ
育苗箱



たね
種を まいた うえ 土を かぶ せます

た 田おこし

ふゆ あいだねむ
冬の間眠っていた田んぼの土を掘り起こし、
ひりょう ま えいよう はい た
肥料と混ぜて栄養がたっぷり入った田んぼを
つくります。



しろかき

た おこしのあと、た んぼにみず い を入れてつち
あ 合わせ、たい 平らにすることを「しろかき」といいます。



これでた う 田植えのじゅんび がかんりょう 完了です！！

た う 田植え①

なえ
苗が12cmぐらいにそだ
は まい いじょう
育ち、葉が2枚以上に
なったら、た う
じゅんぴ
田植えの準備をします。



なえ いくびょうばこ そだ ようす
苗が育苗箱で育った様子



た じゅんぴ
田んぼで準備をします。

た う 田植え②

なえ たば かぶ ほん
苗の束(株)から3~4本とり、
しるし う
印をつけたところに植えていきます。



た う よう す
田植えの様子



げん ざい た う
現在の田植え



いま た う き つか
今ではほとんど田植え機を使って
なえ う
苗を植えていきます。

き かい い こまか
機械では行けない細かいところは
て う
手で植えます。

た う いね か あいだ
田植えから稲刈りの間

なえ た う こめ
苗を田んぼに植えただけではお米はできません。

た みず りょう ちょうせい
・田んぼの水の量の調整

ざっそう ぬ
・雑草を抜く



いね か
稲刈り

いね みの か と
稲が実ったら刈り取りをします。



はさがけ

か と いね かんそう たば いね
刈り取った稲を乾燥させるために束ねた稲を
「はさ」などにかけます。これをはさがけとい
います。



ぼう く た いね たば
※「はさ」とは棒などを組み立て、稲の束をかけられるようにしたものです。

だっ こく
脱穀

かんそう いね さぎょう
乾燥させた稲からもみをとる作業のことをいいます。
ぽん いね つぶ こめ
1本の稲から70粒ほどのお米がとれます。



せんば だっこく
千歯こきによる脱穀



あし だっこくき だっこく
足ふみ脱穀機による脱穀



げん ざい いね か
現在の稲刈り

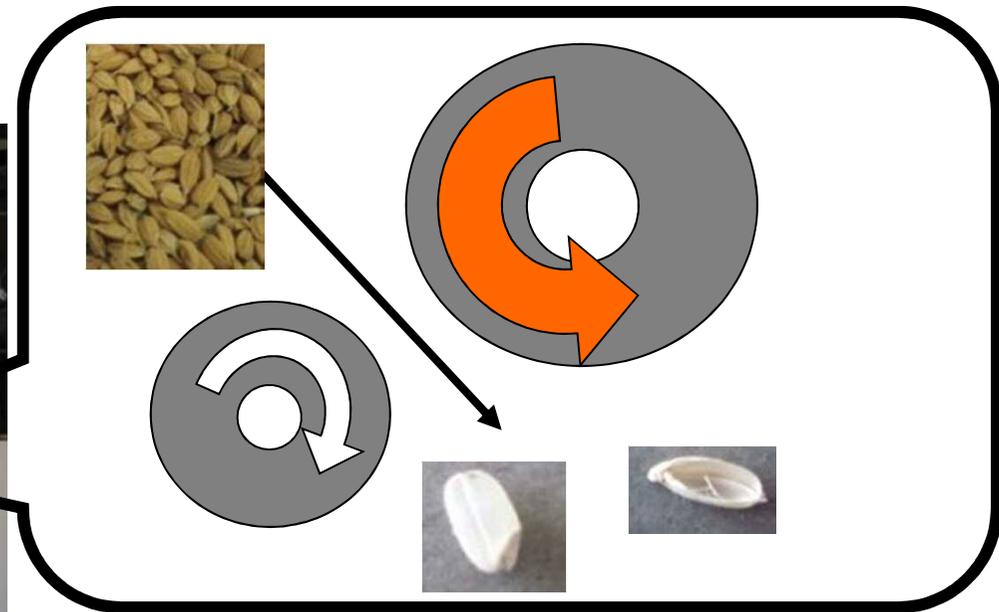
いま て いね か
今では手で稲刈りをするこ
はほとんどなく、コンバインを
つか いね か
使って稲刈りをします。

き かい いね か
この機械は稲刈りだけでな
だっ こく いち ど おこな
く、脱穀も一度に行います。



もみすり

だっ こん
脱穀したもみから、もみがらと^{げんまい} 玄米に^わ 分ける
さ ぎょう
作業です。



はや
速さの^{ちが} 違うゴムのローラーにもみを
とお
通すことでもみがらを^と 取ります。

せい まい
精米

こめ た お米を食べやすくするために げんまい ひょうめん けず 玄米の表面を削る
さ ぎょう 作業です。



みんなが^た食べてる^{しろ}白くてつやつやした^{こめ}お米になります。